

いびきと夜尿症を呈する上顎骨の劣成長患者に対して上顎骨の側方拡大と前方牽引を行った一例

○矢島由紀¹
(ゆきデンタルクリニック)

【目的】

上顎骨や中顔面部の劣成長による咽頭気道の狭窄は口呼吸や低位舌を引き起こし、呼吸障害など機能的要因に対して悪影響を及ぼしている場合がある。耳鼻科にて喘息・花粉症・アレルギー性鼻炎、小児科にて夜尿症と診断されていた上顎骨劣成長の男児に対して、RAMPA セラピーを適用することで口呼吸・いびき・夜尿症の改善が見られたので報告する。

【症例】

患児：9歳7か月 男子

主訴：前歯の前突感

現病歴および現症：喘息 花粉症 アレルギー性鼻炎 に対して耳鼻科通院中。夜尿症は2年前より県外の小児科を紹介され2年間毎日服用中 歯科初診時にはベシケア錠 2.5mg ミニリンメルト 240μg を服用していた。

所見：常時鼻閉で口呼吸 毎晩いびきをかき、毎晩夜尿がある。

診断：上顎骨の劣成長による上顎前歯の唇側傾斜と狭窄歯列

【治療・経過】

RAMPA セラピーを用いて上顎骨を前上方へ牽引しながら oral appliance はセミラピッド拡大を行った。上顎6-6間幅径は30mmから41mmに増大した。



9y7m 12y11m

治療開始して3週間後に母親よりいびきがなくなったこと、それと同時期より夜尿がない日が出てきたと報告があった。その後も徐々に改善し、続けて3か月間夜尿が見られなかったため薬が中止となり、夜尿症の受診はなくなった。現在(12歳11ヵ月)で夜尿症

の再発はなく、喘息発作も起きていない。

模型計測の比較

	9y7m	12y11m	変化量
OB	5.0mm	3.0mm	-2mm
OJ	7.0mm	2.5mm	-4.5mm
上顎犬歯間幅径	23mm	28.5mm	+5.5mm
上顎6-6間幅径	30mm	41mm	+11mm
下顎犬歯間幅径	20.5mm	23.5mm	+3.0mm
下顎6-6間幅径	32mm	42mm	+10mm

口呼吸は改善され上咽頭後壁は治療後上昇し、上咽頭部気道幅径は増大した。



a 初診時

b 7か月後

セファロの比較

	SNA	SN-PP/ SN-FH	SNA/ NSBa	SN-MP	PP-MP	pm-ad2
a	76.1°	0.84	0.57	43°	31°	4.4mm
b	82.9°	1	0.61	42°	35°	8.7mm

【考察】

SNAが増大し、SN-PP/SN-FHの数値が1に近づいてSNA/NSBaが増加している。これは上顎骨が時計回りの回転をしながら前方へ成長したことを示す。

SN-MPが減少し、下顎が反時計回りに回転している。上咽頭部気道幅径を示す pm-ad2 が4.4mmから8.7mmへ増大したことは咽頭気道の拡大を示す。中顔面部の前方成長が促進され、気道の拡大が得られた結果、口呼吸、いびきの改善があり、睡眠関連呼吸障害の一症状である夜尿の改善が認められたと推測される。

【文献】

Yasushi Mitani et al.:Craniofacial Chenges in Patients with ClassIII Malocclusion Treated with the RAMPA System IJO. V0. L21 NO. 2 SUMMER 2010

原 浩貴 呼吸様式に伴う上気道形態の変化① いびき音とCTを用いた評価法① 顎顔面口腔育成会誌Vol.5 No.1 2017